静岡県経済産業部農林業局（公社）静岡県農林振興公社　平成 27 年３月発行の「企業の農業参入 事例集Ⅱ」より作成

日本豊受自然農（株）

～新たな農業の担い手としてのビジネスモデルの確立を目指す～

農業参入の状況
会社名　：農業生産法人日本豊受自然農株式会社
代表者　：由井 寅子
所在地　：函南町平井
設立年月：平成 17 年 5 月
　　函南町での耕作開始平成 23 年 10 月
資本金　：5,300 万円
参入形態：農業生産人
参入場所：静岡県函南町（洞爺にも農場）
主要事業：野菜、穀類、ハーブの生産、販売
　　加工食品・化粧品の製造・販売等
経営規模：野菜、穀類、ハーブ等 410a

○農業参入のきっかけから営農開始まで

・動機

代表の由井寅子氏は、ヨーロッパで多く利用されている自然療法を英国で学び、平成 9 年に日本に本格的に導入した、国内における同療法の第一人者である。療法家として活動するうちに、クライアントが安心して使える化粧品や食環境を改善するミネラル豊富な野菜の必要性を感じるようになり、平成 16 年頃から療法に必要なハーブ、化粧水の原料となるヘチマ、クライアントに提供する野菜等の栽培と化粧品の製造等を徐々に手掛けるようになったが、東日本大震災に接し食料の大切さを痛感したことで農業生産の拡大を決意し、日本豊受自然農(株)を設立した。

・農地の確保方法

参入にあたり、露地野菜等の栽培に適した畑地を探したところ、化粧品のユーザーを通じて函南町内の農地 270a を紹介され、解除条件付貸借で 1 年半程度耕作した後、取得した。その後も近隣の農地の貸借等を進め、現在では 410a で 60 種類程度の野菜、麦・大豆等の穀類、ハーブを生産している。

自然豊かな圃(ほ)場にて 由井代表

なお、函南町以外にも、ハーブ栽培に適した北海道有珠郡壮瞥町の土地（非農地）を森林組合に紹介されて取得し、150a で 40 種類程度を生産している。

・生産技術の習得

由井代表の生家は農家で幼い頃から農業経験を積んでおり、他に農家出身の構成員が 1 名、経営に参加している。

○参入から現在まで

・農産物の生産、販路の確保

日本豊受自然農(株)では、自家採種した在来種を無農薬・無化学肥料で栽培する自然農法に取り組んでおり、他所では手に入らない、特長ある農産物を生産している。現在の主な商品は、季節の野菜（詰合せの宅配及び店舗でのバラ販売）、自社生産の野菜・ハーブを利用した無添加加工食品や化粧品等で、日本豊受自然農(株)のオンラインショップと、関連会社のオンラインショップ及び直営店舗（全国７箇所）でユーザーに直接販売している。なお、販路は法人設立以前からの自然療法のクライアントや化粧品のユーザー等が確保されていた。

・農業参入してよかったこと

農作物の生産から加工販売まで一貫して行なうことで、より喜んでもらえる商品やサービスを提供できるようになった。また、仲間と共に自然の中で農作業に取り組み、収穫を得られることに、何よりの喜びを感じている。

加工食品用人参の処理作業

○本業の経営ノウハウの活用

会社経営やマーケティング等、あらゆる方面に本業のノウハウが活用されているが、中でも由井代表のホメオパシー療法家としてのハーブや食品、人体や環境についての知識とクライアントのニーズは、栽培品目・栽培方法の選択や商品開発になくてはならないものとなっている。

季刊の情報誌と商品リーフレット

○今後の展望

農業で収益を上げるには６次産業化が欠かせないと考えており、加工品の製造販売だけでなく、平成 26 年 12 月に東京都世田谷区に「豊受オーガニックレストラン」と「ショップ」を開店した。レストランでは自社生産の野菜を使った「食べて健康になる食事」を提案し、ショップでは自社の商品だけでなく、縁あって参入した静岡の産品についても紹介する、「静岡物産展」を目指している。

今後、自分達の後に続いて農業に携わる人や企業が増えていくよう、収益の上がる経営を実現し、農業を「あこがれの職種」にしていきたいと考えている。

○新規参入企業へのアドバイス

一つ、なぜ農業参入するのか、目的をしっかりしないと挫折する。

一つ、農業参入にはお金がかかるので、ある程度の資金を準備すること。

一つ、天候の左右され失敗することもあるが、真摯に受け止め、原因をしっかり考え、土地・作物に適した方法を工夫しながらあきらめずに取り組むこと。

一つ、１人でやるのではなく、志を同じくする仲間と一緒に取り組むこと。